



KOD -Multi & Epi-™
作成：2014年12月9日

整理番号：1630A

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	KOD -Multi & Epi-™
製品コード	KME-101
会社名	東洋紡株式会社
住所	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
担当部門	ライフサイエンス事業部
電話番号	06-6348-3786
FAX番号	06-6348-3833
推奨用途および使用上の制限	DNA増幅のためのPCRキット（研究用試薬）

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性	通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さいが、有害性の調査が十分ではないので、取扱いには注意する。
有害性	
GHS分類	
物理化学的危険性	分類できない
人健康有害性	
急性毒性（経口）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分3
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
環境有害性	分類できない
ラベル要素	
<KOD -Multi & Epi-™>	
絵表示又はシンボル:	—
注意喚起語:	警告
危険有害性情報:	軽度の皮膚刺激 眼刺激
注意書き:	
安全対策(予防策)	—
応急措置(対応)	皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受ける。眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。
<2x PCR Buffer for KOD -Multi & Epi-™>	
絵表示又はシンボル:	—
注意喚起語:	警告
危険有害性情報:	飲み込むと有害のおそれ 軽度の皮膚刺激
注意書き:	
安全対策(予防策)	—
応急措置(対応)	気分が悪いときは医師に連絡する。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受ける。



KOD -Multi & Epi-™
作成：2014年12月9日

整理番号：1630A

安全データシート

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物	CAS No. (EC No.)
化学特性	酵素、基質等の水溶液	
パーツ名	主要成分	
KOD -Multi & Epi-™	酵素	(EC 2.7.7.7)
	モノクローナル抗体	—
	グリセロール	56-81-5
	ポリ(オキシエチレン) = ノニルフェニル = エーテル	9016-45-9
2x PCR Buffer for KOD -Multi & Epi-™	トリス(ヒドロキシメチル) アミノメタン	77-86-1
	硫酸マグネシウム	7487-88-9
	デオキシアデノシン三リン酸	1927-31-7
	デオキシシチジン三リン酸	102783-51-7
	デオキシグアノシン三リン酸	93919-41-6
	デオキシチミジン三リン酸	18423-43-3
	添加剤	非公開

危険有害成分

化学名又は一般名

	グリセロール	レン) = ノニルフェニル = エーテル	添加剤
別名	グリセリン	ノニドットP-40	非公開
含まれるパーツと含有量	KOD -Multi & Epi-™ : 50%	KOD -Multi & Epi-™ : 0.05%	2x PCR Buffer for KOD -Multi & Epi-™ : <3%
化学特性	CH ₂ OHCHOHCH ₂ OH	HO(C ₂ H ₄ O) _n -C ₆ H ₄ -C ₉ H ₁₉	非公開
CAS番号	56-81-5	9016-45-9	非公開
官報公示整理番号	2-242	7-172	登録済み
化審法:	公表	公表	非公開
安衛法:	公表	公表	非公開

4. 応急措置

吸入した場合

直ちに新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪くなった場合は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

多量の水で十分洗い流す。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受ける。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。

飲み込んだ場合

無理に吐かせず、意識のある場合には、水で口の中を洗浄し、速やかに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火剤

水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤

消火を行う者の保護

消火は風上から行う。

大規模な火災の場合は呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

眼、皮膚への接触、吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出しない。

除去方法

可能な限り、減圧で吸引したり、ウェスなどに吸収させて密



KOD -Multi & Epi-™
作成：2014年12月9日

整理番号：1630A

安全データシート

閉式の空容器に回収し、その後、大量の水で洗い流す。



KOD -Multi & Epi-™
作成：2014年12月9日

整理番号：1630A

安全データシート

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	使用時は保護具を着用し、使用後は手をよく洗い、人体に接触しないよう十分に配慮する。
注意事項	眼、皮膚、衣服への接触を避け、取扱い後は充分洗浄する。
安全取扱い注意事項	取扱い場所を常に整理整頓し、清潔に保つ。
保管	
適切な保管条件	密閉容器にて-20℃で保管する。
安全な容器包装材料	本製品に使用されている容器内で保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	グリセロール (ミスト)	ポリ（オキシエチ レン）＝ノニル フェニル＝エーテ	添加剤
日本産業衛生学会勧告値	設定されていない	設定されていない	設定されていない
ACGIH TLV	10mg/m ³	設定されていない	設定されていない
OSHA PEL	total dust: 15mg/m ³ TWA respirable fr.: 5mg/m ³ TWA	設定されていない	設定されていない
保護具			
呼吸器の保護具	必要に応じてマスクを着用する。		
手の保護具	ゴム手袋を着用する。		
眼の保護具	保護眼鏡を着用する。		
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣等を着用する。		

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状	KOD -Multi & Epi-™および2x PCR Buffer for KOD -Multi & Epi-™は-20℃以上で液体。
色、臭い	無色透明、ほとんど無臭
pH	7.0～9.0
引火点	水溶液のため引火性はないと考えられるが、KOD -Multi & Epi-™は水分蒸発後160℃の引火点を持つグリセロールが残留する。
爆発特性	常温では爆発性はない。
比重	1.0～1.2
溶解性	水に可溶

10. 安定性及び反応性

安定性	-20℃以下で安定
反応性	通常の条件下では安定である。
避けるべき条件	高温、直射日光、火災などによる強熱、強酸化剤、還元剤
危険有害な分解生成物	知見なし



KOD -Multi & Epi-™
作成：2014年12月9日

整理番号：1630A

安全データシート

1 1. 有害性情報

<KOD -Multi & Epi-™>

急性毒性

データなし。

局所効果

軽度の皮膚刺激、眼刺激を起こす可能性がある。

各成分の有害性情報

	グリセロール	ポリ（オキシエチレン）＝ノニルフェニル＝エーテ
急性毒性 (LD50)	マウス経口： 4090mg/kg ラット経口： 12.6g/kg	マウス経口： 3500mg/kg ラット経口： 4190mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	区分3	区分3
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B	区分2A
発癌性		
日本産業衛生学会勧告値	記載なし	記載なし
ACGIH TLV	記載なし	記載なし
OSHA PEL	記載なし	記載なし

<2x PCR Buffer for KOD -Multi & Epi-™>

急性毒性

データなし。

局所効果

軽度の皮膚刺激を起こす可能性がある。

各成分の有害性情報

	添加剤*
急性毒性 (LD50)	ラット経口： 50mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分3
発癌性	
日本産業衛生学会	記載なし
IARC	記載なし
ACGIH	記載なし

*添加剤の急性毒性 (LD50) は類似物質からの推定による。

1 2. 環境影響情報

移動性

水溶性あり、水系に拡散する。

残留性・分解性

データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理委託することが好ましい。本製品の低濃度廃水は活性汚泥処理を行うことができる。焼却する場合には、焼却設備により大気汚染防止法令等に従い、おがくずなどに吸収させて焼却炉で少しずつ焼却する。

汚染容器・包装

その施設・地域の廃棄規則に準じて廃棄する。



KOD -Multi & Epi-™
作成：2014年12月9日

整理番号：1630A

安全データシート

1 4. 輸送上の注意

国際規制

海上 非危険物

航空 非危険物

国内規則

陸上 非危険物

海上 非危険物

航空 非危険物

輸送の特定の安全対策及び条件 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
-20℃以下で保存し、輸送する。

1 5. 適用法令

輸送に関する法規制は、14. 輸送上の注意の項参照。

	グリセロール	ポリ (オキシエチレン) =ノニルフェニル=エーテ	添加剤
化審法	—	—	—
消防法	危険物第4類引火性液体第3石油類水溶性液体	非該当	非該当
海洋汚染防止法	非該当	環境省告示・査定物質(Y類同等の有害液体物質)	非該当
化学物質管理促進法	非該当	<1% 非該当	非該当
労働安全衛生法	非該当	非該当	非該当
通知対象物 (政令番号)			
毒物劇物取締法	非該当	非該当	非該当
毒物・劇物 (政令番号)			

1 6. その他の情報

参考文献

厚生労働省 職場のあんぜんサイト
<http://anzeninfo.mhlw.go.jp>
NITE:独立行政法人 製品評価技術基盤機構
<http://www.nite.go.jp/>

制約事項

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。